

会 議 録

会 議 の 名 称	平成２７年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第２回）
開 催 日 時	平成２７年１１月１９日（木） 午前１０時から午前１１時３０分まで
開 催 場 所	本庁舎２階 全員協議会室
出 席 者	金子 廣志 谷 眞弓 菅原 久美子 高橋 靖子 須田 邦彦 荒井 マサ子 石原 志穂 西村 輝子 中島 栄 土屋 賢治 萩原 宏枝 大熊 正 小松 敏彦 森 聖 鈴木 義弘 三上 文子 渡辺 哲也 計１７名
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 谷口副課長、富樫主査、藤田主任、天倉主事
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について (3) 平成２８年度の事業実施に向けた課題等について (4) その他 4 閉会
会 議 資 料	・次第資料 ・委員名簿
そ の 他 の 事 項	特になし

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開会 (天倉主事)

2 挨拶 (金子教育長)

報告

新座っ子ぱわーあっぷくらぶ事業が、文部科学省から表彰を受けることになった。

3 議事 (説明：富樫主査)

(資料 P 1 ～ 7)

(1) 新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について

- ・低学年の登録率が高く、1・2年生は7割を占める。また、全体の登録率は概ね4割から5割となっている。
- ・東北ココフレンド及び四小ココフレンドでは、昨年と比べ登録者数が70人ほど増加している。
- ・東野ココフレンド、東北ココフレンドは参加者が多く、100人を超えたこともあった。

(資料 P 8 平成27年度実施校の活動報告)

<東野ココフレンド：天倉主事>

- ・夏休みは参加者が多く、120人を超える日もあった。開催したイベントの中でも白玉団子作りは、参加者が100人を超えた。当日子どもが嘔吐してしまったが、学校や子どもたちの協力もあり、適切に対応できた。
- ・地域の方との交流を楽しんだ。
- ・校長先生の御厚意で、支援が必要な子どもへの接し方に関する勉強会に参加させていただいた。
- ・2学期に入り子どもの疲れが見えてきて、参加人数も日々30人前後と落ちついてきている。
- ・帰りの会の際には、車や自転車、不審者に注意するよう伝えている。

<東北ココフレンド：土屋委員>

- ・参加者が120人を超える日もあった。
- ・十文字学園女子大学の学生がボランティアとして来てくれ、子どもたちの遊び相手になってくれて、助かった。
- ・宿題を必ずするよう指導しているため、宿題をさせるためにココフレンドに参加させる、という保護者もいる。
- ・申込制の特別活動を実施している。これまでに、百人一首や絵手紙教室を行った。次回は今年度最後の活動で、お菓子作りを3回に渡って実施する。

<野寺ココフレンド：萩原委員>

- ・夏休みは、休業日に来ない子たちが参加する傾向があった。
- ・埼玉県の実業である「青少年夢の配達便事業」を利用して、日本工業大学のサイエンス教室を実施した。
- ・冬時間になり、参加人数が減った。子どもが参加してくれるよう、いろいろなイベントを提案中である。羊毛フェルトを使ったマスコット作りは、5・6年生の女子児童の中で大反響だった。

委員 以前、ココフレンドで活動中にけがをした子がいたが、放課後児童保育室

で手当てをするようココフレンドのスタッフから言われたそうである。ココフレンドでは、けがをした際どのように対応しているのか。

事務局 軽いけがであればスタッフが手当てできるような道具をそろえている。大きなけがであれば、学校に相談し保健室を使わせていただくこともある。緊急時には、救急車を呼ぶなどの対応をするようお願いをしている。

委員 中には、ココフレンドの登録児童ではないという理由でけがの処置することに疑問を持つスタッフがいるようであるが、けがをした際にはココフレンドの子、放課後児童保育室の子、という区別をせずに対応して行きたい。

(2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について（説明：藤田主任）

- ・登録児童の保護者対象のアンケートについては、例年10月に実施しているが、今回は9月8日（火）から9月15日（火）までの期間で行った。
- ・今回は保護者対象のものとは別に、コーディネーター・スタッフを対象としたものを実施した。
- ・昨年実施しなかった東野ココフレンド、新堀ココフレンド、四小ココフレンド、新規校の栗小ココフレンドの全4校で実施した。
- ・事務局からは4校をまとめた結果について説明する。

【保護者に対するアンケート：9月8日（火）～9月15日（火）】

（資料P13）

<設問1>

低学年ほど登録者が多く、高学年ほど少ない。

<設問2>

「週1回以上」、「月に1回・学期に1回」という回答が二極化している。

<設問4>

子どもの自主性による参加が一番多く、保護者が必要とする時の参加が二番目に多い。

<設問5>

「友達と遊ぶ機会が増えた」、「異学年の子どもたちと一緒に遊ぶ機会ができた」等、交流の幅が広がったことがうかがえる。

<設問6>

7割以上の保護者が、開設時間について「適当である」と感じている。

<設問7>

長期休業中の開設時間が「適当である」と感じている方、「短い」と感じている方が、二極化している。

<その他の意見>

次の意見が多かった。

- ・子どもが毎日行きたいと言ったり、その日の出来事を話してくれたりして、楽しく過ごせていることがうかがえる。
- ・子どもがスタッフから様々な遊びを教わってきて、成長を感じる。
- ・楽しいイベントが企画されている。
- ・ココフレンドがあり、助かる、安心できる。
- ・スタッフへの感謝の言葉

【スタッフに対するアンケート：8月28日（金）～9月15日（火）】

（資料P24）

<設問1>

現場から見て、子どもたちが異学年交流できるようになったり、明るく元気に過ごせるようになったと感じていることが分かる。

<設問2>

コーディネーターやスタッフ自身が地域の子ども、学校、ココフレンドをはじめとする子どもたちの集まる施設への関心が高まり、アクションを起こすようになったことや、地域の中で人の輪が広がっていることが分かる。

<設問3>

地域の大人や保護者のココフレンドに対する関心が高くなり、地域間交流も図られるようになったことが分かる。

<設問4>

現場では、学年を超えて子どもたちが自由に遊び、体験できる居場所があることがココフレンドの効果であり、利点であると捉えられている。

<設問5>

現場の人材について手厚く対応すべきという意見や活動場所となる学校の理解や協力なしには、ココフレンド事業の発展は難しいと感じているようである。

<設問6>

長期休業日の開設時間の延長について検討していますが、具体的にどのような体制を望みますか。(結果について、資料には掲載なし)

次のような意見が多かった。

- ・午前・午後で交代制が良い。
- ・コーディネーター・スタッフを増員すべきである。
- ・昼食を挟む場合、衛生面の課題がある。
- ・スタッフの謝礼金を見直すべきである。

<その他の意見>

- ・開設時間の延長により、参加児童が増えすぎ、活動スペースが問題になるのではないか。
- ・熱中症や高齢スタッフの健康面の心配がある。
- ・途中参加の受入れ時間の検討が必要である。
- ・臨床心理士や発達障害児支援の専門スタッフを配置すべきである。

委員長 今回のアンケートによって様々なことが見えてきた。意見、感想があれば発言してほしい。

委員 異学年間交流や地域の大人同士の交流が増えたことは、素晴らしい成果だと感じた。異学年交流については、学校でも実施しているが、地域との交流というとなかなか時間がない。子どもたちの豊かな成長につながると思う。

委員 放課後に目的を持たずに行動するよりも、ココフレンドに参加できるととても良い。とにかく、体を動かすことが良いと思う。

委員長 最近では地域内での交流やネットワークが希薄化してきていると思うが、その点から見るとどうか。

委員 防犯パトロールや声かけ運動など、子どもに声をかける機会は増えていると思う。ココフレンドは、もっと周知が必要だと思う。

委員 最近の子どもたちは、数人が固まってゲームをしていることが多い。私が子どものころは、注意してくれる大人が多かったように思う。ココフレンドにはトランプやジェンガがあるが、もっと子どもがココフレンドに参加したいと思うようなゲームなどがほしい。

委員 お迎えができないという理由で、参加しない子もいる。子どもがけんかをして、仲裁に入るが、なかなか対応が難しい。各ココフレンドのスタッフが集まって研修を行う機会がほしい。

委員 コーディネーター・スタッフに対するアンケート設問 2 の結果が、すばらしいと思う。なかなか地域の子どもの目を向けられないので、地域全体で見守ってけるとよい。

委員長 思った以上の成果があるようである。大人の中でも 1 つのネットワークができています。ココフレンド事業の拡充についてだが、学校側の理解が必要不可欠である。学校は、もっと社会教育の施設として活用されるべきである。東野小学校は、高齢者いきいき広場として活用されており、たくさん的高齢者と子どもたちの交流ができています。一時は反対の意見もあったが、子どもたちにとってプラスになると思う。しかし、まだまだそういった意識は低いようである。

委員 学校施設の目的外使用になると思う。学校現場は、やはりためらってしまうと思う。ただ、小学校は比較的理解を得やすいのではないかな。

委員 私が中学校にいた時は、体育館や武道場を団体に開放していたが、学校備品の管理上、不安な面もあった。そのあたりがクリアできれば、学校は公共施設なので、いろいろな方に開放するのが良いと思う。

委員長 ココフレンドはほぼ常時教室を使用しているので、学校施設の目的外使用よりももっと踏み込んでいると思う。学校との調整に問題を感じることはあるか。

委員 私は特に感じることはないが、あくまでも学校が優先なので、急に体育館が使えなくなるといったことはある。特に長期休業中は、ここから先に入ってはいけないなど、ルールが増える。

委員長 たしかに、あくまでも学校が優先である。教職員が、学校が有効利用されている、というふうに感じられるよう意識改革が必要である。スタッフの拡充は検討しているか。

委員 検討中である。今年度は、十文字学園女子大学の学生に協力いただいているが、ぜひ来年もお願いしたいと思っている。ただ、市内在住者が少なく、ココフレンドまでの交通手段が見つからないという課題があるようである。長期休業中だけでも、市内 3 大学に協力いただけないか打診することも検討中である。コーディネーターについては、どうしても負担がかかってしまう。改善が必要である。

委員長 財政部門との調整も必要である。

委員 学校の理解と協力があり、図書室等を使わせていただき、ありがたい。ココフレンドを開設していない地域からも問い合わせがあるが、新座市の児童数は増えてきており、教室が足りない現状がある。放課後児童保育室が大規模化している学校を中心に開設していきたいが、物理的に開設できない学校もある。

委員 スタッフに対するアンケートの設問 5 で、「学校の理解と協力」が重要であるとの回答が多いが、もっと協力してほしいということなのか。

委員 現状でも、協力体制はできていると思う。事業を発展させていくには必要ということではないか。

委員 第四小学校は、次年度 2 クラス増える予定であり、現在ココフレンドが使っている教室を普通教室にしないでほしい。また、PTA の活動場所

も制限されている。そういった問題があるため、学校側も悩んでいるようである。また、不審者に対する対策をしっかりしている学校なので、学校関係者以外が出入りすることを不安に感じることもあるようだ。

委員 そういった問題も確かにあるが、ココフレンドができたことにより生まれた地域とのつながりは、評価していただいていると思う。

委員 子どもが急激に増えれば、手狭になるのは仕方のないことである。

委員長 このアンケートからココフレンドの課題が読み取れるので、事業展開の基礎資料として活用して行きたい。

(3) 平成28年度の事業実施に向けた課題等について（説明：谷口副課長）

現在予算編成中のため全て実施できるか分からないが、次のとおり検討している。

ア 平成28年度新設校について

- ・今年度は、未開設校について、事務局が訪問しヒアリングを行った。その結果、大和田小、野火止小、陣屋小については、活動スペースの確保が困難であることが判明したため、来年度の開設は難しいと判断した。
- ・3校開設することを検討しており、放課後児童保育室の入室状況や、余裕教室の有無等を勘案し、3校中2校は、片山小、新開小を考えている。残り1校は今後検討し、次回運営委員会で御報告したい。

イ 長期休業中の午後の開設について

- ・放課後児童保育室の大規模化、狭隘化に伴い、以前から課題となっている。
- ・アンケート結果を見ると、ニーズは高いようである。
- ・来年度はモデル校1校を設定し、午前8時30分から午後5時までの時間帯で、試験的に実施したい。モデル校は、東北ココフレンドを検討している。
- ・昼食については、お弁当を持参してもらいたいと考えている。また、放課後児童保育室と同じく仕出し弁当を用意することも検討している。昼食をとる場所等は学校と調整する。
- ・人員については、午前はこれまでどおりスタッフで運営することとし、午後は一つの案として、シルバー人材センターに委託することを検討している。
- ・来年の春休み、冬休みは、これまでどおり午前中の開設とする。

委員 初めての試みなので、仕出し弁当は出さず、お弁当は家庭が用意するようになったほうが良いと思う。お金のやりとりなどがスタッフの負担になると思う。

委員長 たしかに、できるだけシンプルな方法にしたほうが良い。モデル校は1校で良いか。

委員 運営側のことを考えると、1日朝から晩までということになる。未経験のことであるので、来年試験的に1校で実施し、放課後児童保育室の大規模化や狭隘化が解消されるのか等の効果を検証した上で、他のココフレンドでの実施を検討していきたい。

委員長 では、モデル校は1校とし、有効であれば次の年から他のココフレンドでも実施していきたい。

委員 いつ周知する予定か。

事務局 まだ決定ではないが、可能であれば入学説明会で周知できればと思う。

ウ 開設時間の拡大について

- ・次の２点について、検討している。

①冬時間の廃止

１０月２０日から１月末日までは、夕方暗くなるのが早いため、午後４時３０分までの開室としているが、この期間についても、午後５時までの開室としたい。下校時の安全確保については、十分考えていく。必ずお迎えに来てもらうことや、放課後児童保育室との連携などが対策として考えられる。

②お盆・年始の開室

事業開始当初はお盆（８月１３日、１４日、１５日）も年始（１月４日～１月７日）も開室していたが、参加人数が少ないため、その後は開室しないことにしている。共働き家庭支援のため、来年からはこの日も開室することとしたい。ココフレンドは現在、学校行事等で休室にすることがあるが、そういったこともなるべくなくしていきたい。

エ １年生の受入れ時期について

- ・これまで、１年生は５月の連休明けから参加を開始してきたが、運営委員会で受入れ時期を早められないかという意見をいただいていた。このため、１年生の給食が始まる日（４月中旬）からの参加としたい。
- ・入学説明会でココフレンドの申込書を配布することを検討している。
- ・申込受付の方法や時期をどうするかが課題である。

４ 閉会（天倉主事）